



川崎市立多摩病院



聖マリアナ医科大学

43号

春

# たま病院ニュースレター

TAMA Hospital News Letter 2024



## 認知症と“共生”する医療を目指して

神経精神科 三宅 誕実

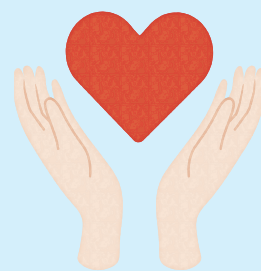
精神疾患にはまだ根治療法がなく、ストレス社会・超高齢社会によって、精神疾患の患者数は増え続けています。大きな理由の1つが認知症患者数の増加であり、認知症患者の半分以上をアルツハイマー型認知症が占めています。かつて2025年には高齢者の5人に1人、国民の17人に1人が認知症となる未来が予測されましたが、もう来年の話です。高齢者人口のピークは2042年と推測され、わが国の少子化対策が“異次元に”奏功しない限り、国民の3人に1人は高齢者です。その頃には高齢者の2人に1人は認知症となる予測もあり、近い将来、認知症が克服されなければ、“共生”するしかありません。

そのような背景の中、2024年1月1日に「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行されました。法律名にある通り、今後の認知症に関する政策分野の理念・方向性は「共生社会の実現」です。認知症基本法では、国・地方公共団体が認知症施策を策定・実施する「責務を有する」とされ、多摩病院には市立病院としての役割がより求められます。したがって、今後の認知症支援は、①外来診療での早期発見・早期治療、②身体疾患の入院治療における認知症ケアがより重要になります。

①について、2023年にアルツハイマー型認知症の新規治療薬レカネマブがわが国で承認されました。根治療法ではありませんが、疾患の原因にアプローチした初めての治療薬です。軽度認知障害などの認知症グレーゾーンを含む軽度アルツハイマー型認知症に対して薬効を有する薬剤であるため、その恩恵を最大限享受するためにも早期発見・早期治療が今まで以上に重要です。②について、身体疾患で入院する高齢者及び認知症患者数は今後も増える一方です。認知症サポートチームでは、医師、認知症認定看護師、薬剤師、心理士や理学・作業療法士など多職種で協同した認知症ケアを支援していますので、遠慮なくご相談ください。

## 部門紹介

# 神経精神科



当院が2006年に開院して以降、当科は1人医長体制が続き、地域医療における精神科医療へのニーズに十分応えることができませんでした。2022年度より心理士が常勤職となり、2023年度は外来の稼働を改善しましたので、2024年度より常勤医師2名体制を試みます。外来の稼働維持はもちろん、精神科リエゾン、認知症サポートチーム、緩和ケアなど、院内外の精神科医療へのニーズに出来るだけ応えられるよう務めたいと思います。

## 多摩病院DMATの活動のご報告

神奈川県によるDMAT派遣計画に基づいて、第1次隊から第6次隊までが編成されました。多摩病院は第6次隊グループ④として能登中部保健医療福祉調整本部で、1月27日（土）から30日（火）の4日間活動しました。

七尾市内から志賀町の各施設を訪問しましたが、地震の影響で道路が荒れており、マップ上は通れる道でも、家屋が倒壊して通れない道もありました。活動期間中は通水しておらず、給水車や備蓄の水を使用し、水のありがたさを実感しました。

被災者の方たちは暗い顔はあまりされておらず、助け合いながら避難生活を送っていて、都会にはない温かさを感じました。一刻も早く通常生活に戻れることを祈りつつ、私共は何かできるかを考えていきたいです。

